

ポータブル型簡易聴力検査の検討

① 研究の背景と目的

聴力検査は通常、人が入れる防音室や大きな聴力検査機器が必要であり、一度設置すると動かすことは困難です。足腰が悪く耳鼻咽喉科を受診できないような患者さんは聴力の評価が難しく、治療が遅れることもあります。そこでポータブル式の聴力検査機器が求められてきました。最近になって、タッチパネル操作で聴力検査ができるとうたわれるポータブル型簡易聴力検査機器が開発されました。しかし、本機ではこれまでの機器と同等の検査ができるかわかりません。そこで本研究では、本機で簡易聴力検査ができるかどうか検証することとしました。

② 研究の方法

1. 防音室において耳鼻咽喉科でもっとも一般的に行われている標準純音聴力検査を検査技師が通常通り施行した後、性別、年齢、疾患を記録させていただきます。こちらは通常診療です。
2. 診察室において、検査技師あるいは研究者がポータブル型簡易聴力検査機器を操作し、検査準備を行います。ヘッドフォンを装着いただき、呈示される音が聞こえたらタブレットをタッチしていただきます。こちらは研究として行う項目です。

③ 研究の対象

この研究は、耳鼻咽喉科を受診された以下の条件を満たす方を対象としています。

なお、担当医師の判断によっては参加できないこともあります。

主な参加条件

- ・年齢が6歳以上の方

主な参加していただけない条件

- ・聴力検査を完遂できないと推測される方

未成年を対象とする場合

未成年でも本機が使用できるかどうかを検証するため、未成年の患者さんの参加が不可欠であるため、未成年の患者さんも対象としています。

④ 研究期間

この研究は、2028年3月末まで行われます。また、100人の患者さんに参加していただく予定です。

⑤ 研究組織

研究責任者: 阪本浩一 (医誠会国際総合病院イヤースセンター センター長)
研究分担者: 田中 さくら (医誠会国際総合病院リハビリテーション科)

⑥ 研究の参加・辞退、詳細情報等について

この研究への参加は、あなたの自由な意思で決めてください。たとえお断りになっても今後の治療において不利益を受けることはありません。またこの研究への参加に同意した後にいつでも同意を撤回することができ、不利益はありません。同意の撤回を希望される場合は、遠慮なく担当医師にお伝えください。

また、研究に参加中に、研究参加の継続について、あなたの意思に影響を与える可能性がある新たな情報が得られた際は、すみやかにお知らせします。そして、研究に継続して参加いただけるかどうか、あらためて確認させていただきます。

【お問い合わせ先】

医誠会国際総合病院イヤースセンター 阪本浩一
〒530-0052
大阪市北区南扇町 4-14
0570-099-166

第1版 2024年8月5日